



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報編集委員会

発行日 2019年3月3日

No. 58

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。
その中で最も大いなるものは、愛である。
コリントの信徒への手紙一 13章13節



礼拝献花より

神と共に 人と共に

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『神の風景』

牧師 佐藤和宏

ルカ7章1節～10節

第一の朗読でお読みしました列王記上8章は、神殿建設を終えたソロモンが祈りをささげている場面でした。ソロモンは次のように祈っています。「聖書略(41節～43節)」

驚くべきことに、イスラエルの民と異邦人が区別された中で、ソロモンは言うなればふさわしくない者のために祈っているのです。そして、ソロモンはその祈りにおいて、異邦人のためにも祈る理由を次のように明らかにしています。「こうして、地上のすべての民は御名を知り、あなたの民イスラエルと同様にあなたを畏れ敬い、わたしの建てたこの神殿が御名をもって呼ばれていることを知るでしょう。」

イスラエルの民と異邦人との間にあった決定的な壁、それは越えることのできない大きな隔たりに思われました。しかしソロモンは、最も大切なことに注目し、それを願い求め

ることによって、そうした壁を越えることに成功しているのです。それは「すべての民が御名を知り、畏れ敬うようになる」ということです。こうしてただ神の御名のもので、様々な違いを抱え、相容れることのなかったすべての民が、その行いによってではなく、ただ神の憐れみによって一つとされる、これがソロモンの祈りにほかなりません。

さて、星野富弘さんの作品に次のようなものがあります。

「山に行こう　そして　あなたの造られた風景を見てこよう　花のまわりに　囲いがあるだろうか　崖の上に　柵があるだろうか　小さな心に　さえ　囲いを作っている私（詩画集「鈴の鳴る道」より）」

確かに神が造られた世界、その風景には、国境はもちろんその他あらゆる場面において壁、区別というものなどないと言えるでしょう。つまり、あらゆる境目というものがいないこと、これこそ神の御心にちがいないのです。ところが、私たちはそれに反して、ありとあらゆる場面で、境目をつくり、人と人とを区別していることが少なくないのです。

私たちは「ソロモンの祈り」に学ばなければならぬのではないのでしょうか。イスラエルの民と異邦人との間にある区別は、どうしても越えることのできない壁のように思われました。しかし最も大切なことは、すべての民が主なる神の御名を知り、畏れ敬うようになることであると、願う求めるのです。

私たち人間の間には数多くの違いがあり、それらが壁となって立ちほだかるのですが、そのように違いを抱える私たちの思いを超えて、ただ神にあつて一つとされるのです。

星野さんは呼びかけています。「山に行こう」と。「あなたの造られた風景を見てこよう」と。私たちの眼の前には、たくさんの区別があるので、神の風景にはそれが一切ないので、神の風景にはそれが一切ないので、神の御心で、それが神の御心であることを知り、ただその神の御心によって、私たちは一つとされるのです。そのゆえに「山に行こう」、なのです。

私たちにとって「山」とは、この礼拝の場にほかなりません。日々の生活の中で、人を区別し、様々な柵を作り上げているのが、私たちが生

きる世界の風景と言えるでしょう。そのような区別があふれる社会の中で、一週間を生きている私たちです。一週間の初めの日に礼拝の場に集められ、主イエス・キリストの十字架によって、すべての隔たりが取り除かれ、地上に神の風景が回復された事実を、御言葉に聞いて知るようにと招かれています。

私たち教会の交わりに期待されていることは、私たちが救われ、喜びに満たされればよいということではありません。そのように礼拝の出来事を私たちのことと、内側にとどめるならば、それは教会の内側と外側とを区別し、壁を作っていることになるでしょう。そうではなく、私たち教会の交わりに期待されるのは、「イスラエルに属さない」、教会に属さないすべての人々のためにも祈ることにはほかならないのです。そのために私たちは、まず教会の交わりにおける様々な違いを認め合い、赦し合い、キリストの十字架のもとに一つとされることが望まれているのです。こうして、私たち教会が、壁のない神の風景とされるのです。

(顕現節第8主日)

■キリストの時②

尾〇〇〇寿

その後、エルサレムでは、前172年大祭司の家系に入らないメネラオスという一般祭司が前任者より多額の賄賂を積み上げ、王エピファネスを買収、ヤソン（前174～172年）は追放されメネラオスが大祭司の地位を得るのですが、この時、神殿の宝物を掠めて金策を凌いでおります。

大祭司をめぐる暗闘は更に続き、生命の危険を感じ身を隠した元大祭司オニアス三世に刺客を送り込んで殺害したのです。しかし地位とカネに目の眩んだエルサレム神殿の大祭司メネラオスの奸策にも終焉の時が来しました。

前163年、シリア帝国アンティオコス五世は、隣国バルティア軍の攻撃から自国を守るため、背後に位置するユダヤに対し友和策に転じる外なく、父王エピファネス四世の発布したユダヤ教禁止令を撤回、この時、エルサレム親ヘレニズム派の頭目であった大祭司メネラオスを処刑します（Ⅱマカ13章）。

シリア帝国のヘレニズム政策に対するエルサレム住民の反応は概ね三通りに大別出来るようです。

その一つは、既に述べた大祭司ヤソンに代表されるように、シリア帝国の方針に仰合するシリア派ユダヤ人一派で、その特徴は社会の混乱を回避し、一度手にした既得権益を何としてでも守ろうとした上層階級に見られる現象です。

二番目は、傍若無人なシリア帝国に仰合する一派に掣肘を加えようと、武器を持つて立ち上り、余勢を駆つて一気に民族独立をも果たそうとした武闘派を上げることが出来ます。

その旗頭は、マカベア家のマタテイアス（没前166年）で、彼は同志六千人と共に夜間ゲリラ戦を展開、ローマ帝国の支援を背後に受けながら、各地で大きな戦果を上げ、息子シモンは前142年民族独立の悲願を達成します。

爾来、ローマ帝国の將軍ポンベウスによる皇帝所管属州に編入される前63年までほぼ200年間は民族の百花斎放の時代であつて、律法（トーラー）を筆頭に教義の深化・発展がみられ、新たに救済思想への期待が喚起され、取り分けパリサイ派の成立はやがて使徒パウロの出現となり、新約時代の福音形に決定的影響を与えて行きます。

シリア帝国に対抗する三番手は、思

想運動として出現、平和を愛する篤信のユダヤ教徒で、敬虔な人々（ハシードイーム）と呼ばれた自営農民たちでありました。

そもそもイスラエルの民にとつて、カナンは、神に与えられた嗣業の地（詩一六六）であつて、神自ら契約を履行されると信じ、彼らは大胆にも民族の存亡を神に懸けたのです。

その信仰がどんなものであつたのか、私たちに「詩編」が具に伝えていきます。周知のように、第一編は、律法（トーラー）を守る民に対する神の祝福が述べられており、第二編は、王の即位の歌になつております。

その理由といえば、敬虔な人々（ハシードイーム）にとつて、神こそ絶対の主権者、全幅の信頼を寄せ得る唯一無二の「王」なのです。コラの子のマスキールの歌に、

ヤハヴェよ、あなたがその昔、いにしへの時に、あなたのみ手をもつてはたされたみ業をわれわれは耳でききました。

先祖たちがわれわれに話してくれました。（詩篇四四2、関根正雄訳）

と、あります。それらは、いずれも過去の恩寵に思いを馳せ、悲惨な現実を

乗り越えようとした決意の表れでもありました。

「詩編」は紀元前200年頃から紀元後90年代に編集されたといわれ、それは丁度ヘレニズムが滔々とパレスチナに押し寄せ、ユダヤ民族と宗教を一気に呑み込もうとした年代と符合しているところから、容易に理解できます。

前二世紀に入ると、既に触れたように、東地中海沿岸諸国は、マケドニアに代つてローマ帝国の配下に移行します。前146年ギリシャのコリントやマケドニアがローマ帝国の軍門に下り、前63年以降はユダヤ・エルサレムがローマの皇帝直轄属州となり、ローマと好みの深いイドマヤ出身のヘロデ家一門に託されますが、帝国の信頼を裏切る大きな事件が発生しました。

ヘロデ大王の長男アルケラオス（在位前4～後6年）は、父親に似て残忍非道な統治を敢行したので、ユダヤ人らはローマに直訴、アルケラオスは辺境の地ガリアに流謫、領地ユダヤとサマリアは6年から42年までローマの属州となります。

畢竟するに、アレクサンドロス大王とその後の部将らの統治は纏纏と述べたように、広範なコイネーギリシャ語

圏を創設しました。

その後を継承したローマ帝国は陸路を整備し、潮路を保全したので人や物産の交流が盛んになり要路なるシリアのアンティオキアやエジプトのアレキサンドリアは政治・文化・宗教等の都市として殷盛を極めました。

前四年頃、ヘロデ大王の死と前後してイエスが誕生、わずかに安定した一世紀前半、キリストは福音宣教を開始使徒パウロは主の救済思想に臆することなく独自の信仰を加え、エルサレム

女性会だより

日時… 2月17日 礼拝後

参加者…16名

①聖書の学び…詩篇 130編3～4節
～赦しとしての恵み～

②その他

・世界祈祷日 3月1日(金)

13時半～富士見町教会

・「女性の集い」

4月27日 日吉教会 委細後日

・路上生活者の方々への歯ブラ

シ、ホカロンの献品(締め切

り2月24日)

からイリリコン(ロマ十五19)に至る街々に伝道、その傍ら七つの文書集をギリシヤ語でまとめ福音の真髄を後世に伝えました。

一世紀前半わずかに安定した「キリストの時」があったので、私たちは救いの喜びに与ることが出来た、といえるかも知れません。(元嘉善学校社会科教諭)

■エアコン献金について①

「エアコン献金」について、説明が行き届いていないという指摘をいただきました。これを受け、役員会では今後重要事項について月報紙面を活用して、皆さんにご理解いただけるよう努めることといたしました。エアコン献金に至る経緯について、説明させていただきます。

記録によりますと、旧「冷房機」が設置されたのは、1993年6月のことでした。25年にわたって稼働して来た冷房機のうち、会堂に向かって右側の一機が故障したのが、昨年の夏のことでした。業者に修理を依頼し現場を確認してもらったところ、室外機の基盤に損傷があることが原因であると判明しました。しかし、25年前の機器であるため部品がないことがわかり、修

■学びの会(仮称)

2月24日(日)礼拝後、信徒の提案を受け、2月定例役員会で承認された「学びの会」(仮称)が開かれました。「教会生活」などを中心にもとに学び、共通理解を持つ機会となればと願っています。

日本福音ルーテル教会が発行した「教会員ハンドブック」を資料として用いられました。代議員の○田さんが、必要に応じて説明を加え、参加者が輪読し読み進める方法で、会は進められました。今回は「教会について」を学び、28人の参加がありました。少しでも参加しやすいようにと、時間はすべてで30分としてい

理不能であるという結論に至りました。昨年の夏は、一機が故障したまま、残りの二機で何とか乗り越えることができました。しかし稼働している二機も、故障したものと同一時期に導入していますから、このまま夏の夏を待つことは考えられません。

9月の定例役員会に冷房機の故障について提議があり、協議の結果、3台を同時に入れ替える方向で検討を続け



ます。

次回は、3月24日(日)礼拝後、「礼拝」について学ぶ予定です。皆さんのご参加をお待ちしています。

ることとしました。

理由としては①同じ時期に取り付けたため、近い時期に故障する恐れが大きいこと。②「冷媒ガス(温度を上げたり下げたりするために用いられる物質)」の規制により、旧冷房機の冷媒ガスの処理が今後困難になること。③故障するたびに工事するよりも、一度実施した方が工費を押さえられると考えられることです。(次号に続く)